Strix 6：105—108(1987)

1984年秋に観察した日本では稀な鳥類について

ペール・アルストレム，ウルバン・オルソン

我々は，1984年9月から11月にかけて日本国内各地を探鳥旅行した．その間，日本では比較的珍らしいと思われる鳥類を観察したので報告する．なお，アイスランドカモメ *Larus glaucoides* についてはすでに報告した（Strix Vol. 4；70-72, 1985）．

モリムシクイ *Phylloscopus sibilatrix*

1984年10月8日午後に石川県の舳倉島西側の道を歩いていたとき，林縁の樹冠にとまる1羽の小鳥を発見した．この鳥は羽毛がばさばさで疲れているように見えた．我々はヨーロッパでこの鳥を見慣れているので，モリムシクイであることがすぐわかった．50 m の距離で，20倍の望遠鏡で観察したが，5-10分後に飛び去った．

記載：この鳥は代表的な *Phylloscopus* 属のムシクイで，メボソムシクイ *Ph. borealis* とほぼ同じ大きさであるが，大きさには変異が見られる．上面は一様に明るい緑色で，眉班は幅広くて長く，明るい黄色であった．過眼線は黒っぽいオリーブ色であるが，きわだってはいなかった．耳羽，喉，上胸は眉班同様明るい黄色であるが，耳羽は茶色味をおびていた．下面は白色であり，喉，上胸の黄色部とははっきり区切られていた．外側の初列風切（突出部）は特に長く，はっきりした黄緑の縁があり，大雨覆は翼帯がなく幾分うすい色あいで，三列風切の縁は白っぽかった．初列風切は先端に白色部があり，羽の縁は黄緑であった．下嘴の縁は肉色で，嘴の先端は黒っぽく，足はうすい黄色味をおびた茶色であった．鳴き声は大きくはっきりした，やわらかな“tew”であった．

識別：モリムシクイは，*Phylloscopus* 属では最も識別しやすい種で，他と混同することはあまりない．上面が一様に明るい緑色で，頭央線はなく，黄色の喉と上胸は下面の白色部とはっきり分かれている．翼帯はなく，初列風切突出部と三列風切の白っぽい縁は他の種では見られない．囀りは，“zip... zip... zip...”で次第に早くなる．地鳴きは，“tew, tew, tew,...”と繰り返す．

分布：モリクイムシは，ヨーロッパからソ連のウラル山地にかけて繁殖し，アフリカで越冬する．通常の繁殖域からかなり離れた記録としては，アラスカやアリューシャン列島，バイカル湖での例がある．

ムジセッカ *Phylloscopus fuscatus*

1984年10月2日に舳倉島の東側の道を歩いていたとき，藪のなかで採餌している茶色の小鳥を発見した．ムジセッカではないかと考えたが，姿が見にくく鳴き声も聞けなかったので確認できなかった．しかし，同日，後になってから，この鳥をよく観察することができ，鳴き声も数回聞くことができたので，ムジセッカと判断した．翌日も別の場所で観察されたが，その後は見られなくなった．

記載：上面は茶色，狭くて長い眉班は目の前では白っぽいが，後ろのほうではうすい錆色になっていた．黒っぽくてよく目だつ過眼線があり，耳羽にはうすい錆色気味のぶちがあった．翼と尾は茶色で，翼帯はなかった．喉と胸中央から腹部にかけてうすい錆色で，胸と腹の脇と下尾筒はバフ色，腹部にはうすい黄色の縞があった．嘴は黒っぽく下嘴はうすい黄茶色で先端は黒っぽい．足はうすい黄色っぽい茶色であった．鳴き声は強い”tet”で，警戒するとすばやく繰り返した．

識別：ムジセッカはいつも藪の中に潜んでいる．日本でよく似ている種は，カラフトムジセッカ *P. schwarzi* である．カラフトムジセッカは，ムジセッカよりやや大きく，嘴も太く，上面はより

オリーブ色で，下面はよりバフ色がかった黄色である．眉班は通常は太く，目の前では広くなっていてバフ色に富む後方では白っぽくなる．地鳴きさ強く，“tyt, tytryt... tyryt”または“prett... perett”と繰り返す．ムジセッカは，キタヤナギムシクイ *Ph. trochilus* とチフチャフ *Ph. collybita* と間違えることがあるが，この2種は樹冠で採餌し，特に潜行性が強いわけではない．また，眉班，過眼線がそれほど目だたないこと，上面と下面がよりうすい色合いであること，それに地鳴きで区別できる．さらにチフチャフでは下嘴が黒っぽく，足も黒い点で区別できる．ウグイス *Cettia diphone* も潜行性で外見もよく似ている．ウグイスは体が大きく（特にオス），尾が長く，嘴と足が太い．眉班は短くそれほど明瞭ではないし，過眼線もより曖昧である．また，上面はオリーブ味が強く下面はバフ錆色が少ない．尾羽の数は *Phylloscopus* 属が12枚，*Cettia* 属が10枚である．

分布：ムジセッカは，ソ連東部，モンゴル，中国北部で繁殖し，インド北部，中国南部，東南アジアで越冬する．

キタヤナギムシクイ *Ph. trochilus* またはチフチャフ *Ph. collybita*

1984年9月24日佐賀県の有明海岸で，一羽の *Phylloscopus* 属の鳥を観察した．1羽のメボソムシクイ *Ph.borealis* とともに藪の中を飛び交っており，20倍の望遠鏡で約50 m距離で2～3分観察した．キタヤナギムシクイまたはチフチャフに間違いないと考えられたが，この両種はたいへんよく似ているので断定することはできなかった．

記載：この典型的な *Phylloscopus* 属の小鳥は，メボソムシクイより幾分大きめか同じくらいの大きさで，尾がちょっと長めと思われた．上面は灰色っぽい茶色で翼は緑色気味で，翼帯はなかった．眉班ははっきりしていたがメボソムシクイほど目だってはいなかった．耳羽は一様な色合いで明瞭な過眼線は見られなかった．下面は白っぽく，胸の脇にかけて灰色気味であった．下嘴の基部は淡色で，足は黒と茶色っぽい灰色の中間に思われた．初列風切の突出部はキタヤナギムシクイ程度に見えた．この鳥はしばしば翼と尾を震わせていた．鳴き声は聞かれなかった．

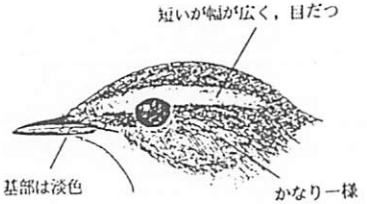
識別：この鳥はキタヤナギムシクイの亜種 *yakutensis* にほぼ間違いないが，十分観察できなかったので，明らかにチフチャフでないとは言えない．チフチャフの亜種 *tristis* は，通常上面がより茶色っぽく胸の脇と脇腹がより茶色っぽいバフ色を帯びている，耳羽は一様で目の下ははっきりした白い三日月型である，また，嘴は全体が黒色，初列風切の突出が短い，鳴き声が違うなどの点で，キタヤナギムシクイの亜種 *yakutensis* と異なっている．キタヤカギムシクイとメボソムシクイの違いは，翼帯がないこと（メボソムシクイでも羽が摩耗してなくなることがある），眉班がそれほど明瞭でないこと，耳羽が一様で過眼線もより目だたないこと，鳴き声が異なることなどである．

分布：キタヤナギムシクイは，中北部ヨーロッパからソ連のアナドリ川付近にかけて繁殖し，アフリカへ渡る．チフチャフは，ヨーロッパほぼ全域からソ連のコリムナ川付近にかけて繁殖し，南ヨーロッパ，北アフリカからインドにかけて越冬する．

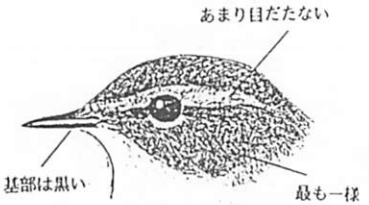
ヨーロッパビンズイ *Anthus trivialis*

東京のあるフィルムライブラリーで鳥の写真を見たとき，ヨーロッパビンズイをビンズイと間違えてラベルしたものがあったので，ヨーロッパビンズイとビンズイの識別点について述べる．

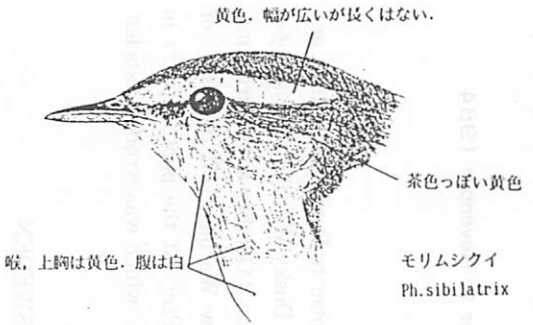
両種で最も異なる点は頭部のパターンで，ビンズイには明瞭な眉班があり，目の前ではバフ色で，目の上と後ろでは白色である．頭頂には縞模様がある（亜種にもよる）が，典型的なものは，眉班の上の縁にはっきりした広い黒線がある．また，耳羽の後ろには普通白と黒の斑点がある．ヨーロッパビンズイも頭頂に縞模様があるが，眉班の縁に広い黒線はない．眉線は通常全体がバフ色を帯びていて，それほど目だたないし，耳羽も一様に暗い(時に淡い点があるものもいるがビンズイほどには目だたない)．ビンズイの上面は，新しい羽毛では灰色味を帯びた緑色である．上背にははっきりした縞があるが，亜種の *yunnanensis* では，上背のかすかな縞はよく見えない．ヨーロ



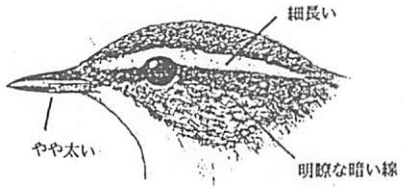
キタヤナギムシクイ
Ph.trochilus



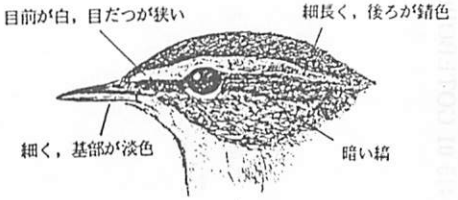
チフチャフ
Ph.collybita



モリムシクイ
Ph.sibilatrix

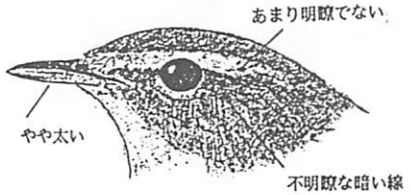


メボソムシクイ
Ph.borealis

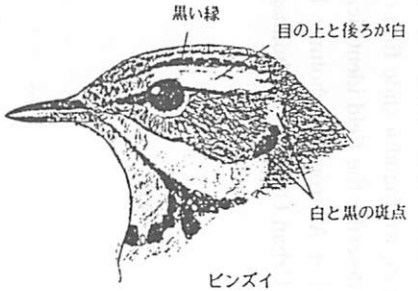


ムジセッカ
Ph.fuscatus

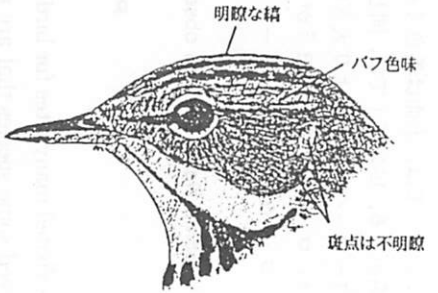
カラフトムジセッカ
Ph.schwarzi



ウグイス
C.diphone



ビンズイ
A.hodgsoni



ヨーロッパビンズイ
A.trivialis

ッパビンズイでは，上面は茶色であり，上背には常にはっきりした縞があり，胸，特に脇腹にも明瞭な縞がある．ビンズイでは，同じパターンもしくは胸と脇腹に同じ様な明瞭な縞があり，胸の斑点はヨーロッパビンズイより大きいものもある．飛翔中の鳴き声は両種ともよく似ているが，警戒声はヨーロッパビンズイのほうがピッチが低い．

ヨーロッパビンズイは，ヨーロッパおよびソ連南部で繁殖し，大部分はアフリカで越冬する．

Some Rare Species observed in Japan from Seotember to Nevenber 1984

Per Alstron and Urban Olsson

We visited many sites for birdwatching in Japan from September to December in 1984, and observed some species that are rare in Japan, for example, the Dusky Warbler (*Phylloscopus fusucatus*) on 2 October and the Wood Warbler (*Ph. sibilatrix*) on 8 October at Hegura-jima, Isikawa Pref. A *Phylloscopus* species seemed to be the Willow Warbler (*Ph. trochilus*) or Chiffchaff (Ph. collybita) on 24 September at Ariake, Saga Pref. At the photo library in Tokyo, we found a slide film of a Tree Pipit (*Anthus trivialis*) which was wrongly labeled. We describe the field identification of these species.

Per Alstron : Marholmsv. 105, S-436 00 ASKIM, SWEDEN

Urban Olsson : Gotaholmsg. 10-19, S-415 01 GOTEBORG, SWEDEN